

# 恐山の火山活動解説資料（平成 29 年 10 月）

仙台管区气象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

### ・噴気など表面現象の状況（図 1～6）

24日に青森県の協力により実施した上空からの観測では、前回（2004年11月8日）と比較して宇曾利山湖北岸とその周辺の変質地帯や湖面の状況に特段の変化は認められませんでした。

24日から26日にかけて実施した現地調査では、宇曾利山湖北岸で従来から見られる噴気や地熱域が確認されました。前回（2017年8月23日）と比較し、噴気の様子や地熱域に特段の変化は認められませんでした。

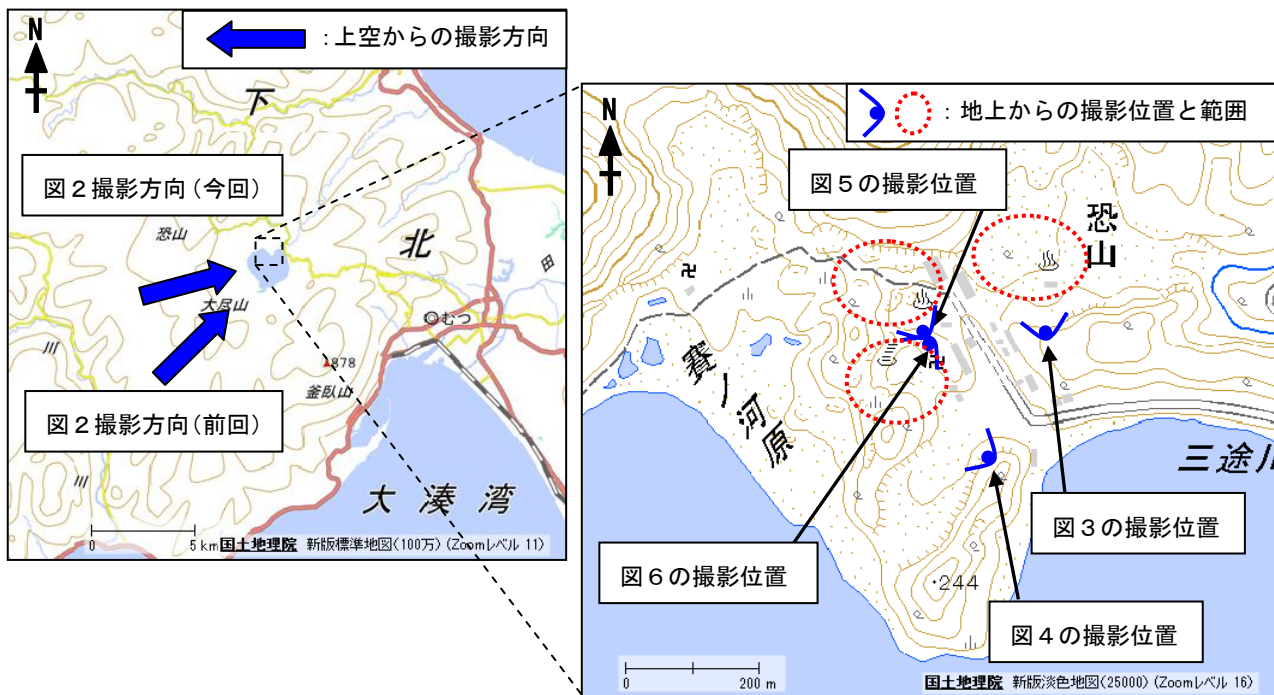


図 1 恐山 宇曾利山湖北岸の写真と地表面温度分布<sup>1)</sup> 撮影位置

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ ([http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。



図2 恐山 上空から撮影した宇曽利山湖北岸の状況

- ・前回（2004年11月8日）と比較して、変質地帯や湖面の状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・青森県の協力により撮影しました。

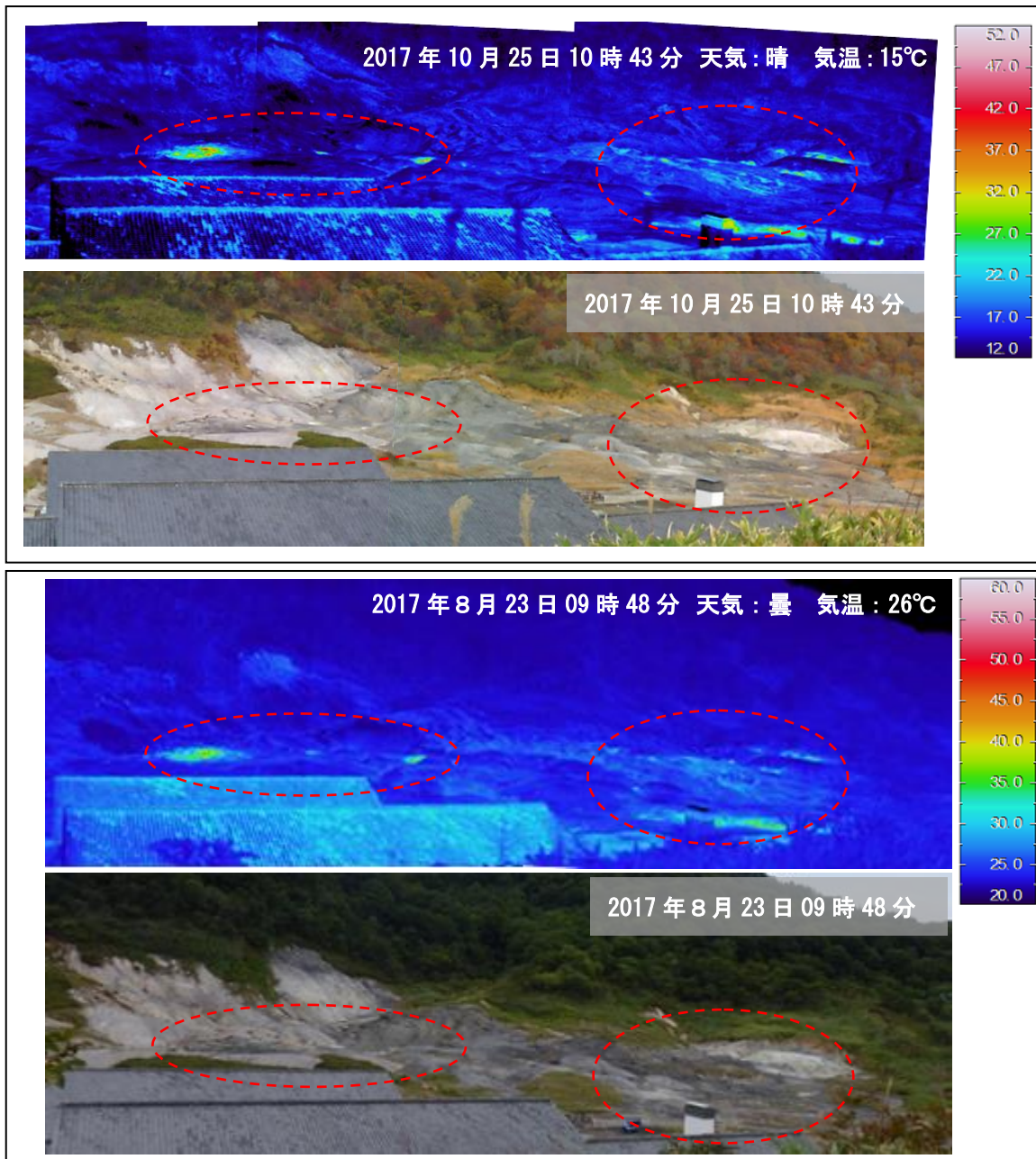


図3 恐山 南から撮影した花染の湯付近北側の状況と地表面温度分布

- ・地熱域（赤丸破線内）や噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。
- ※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。

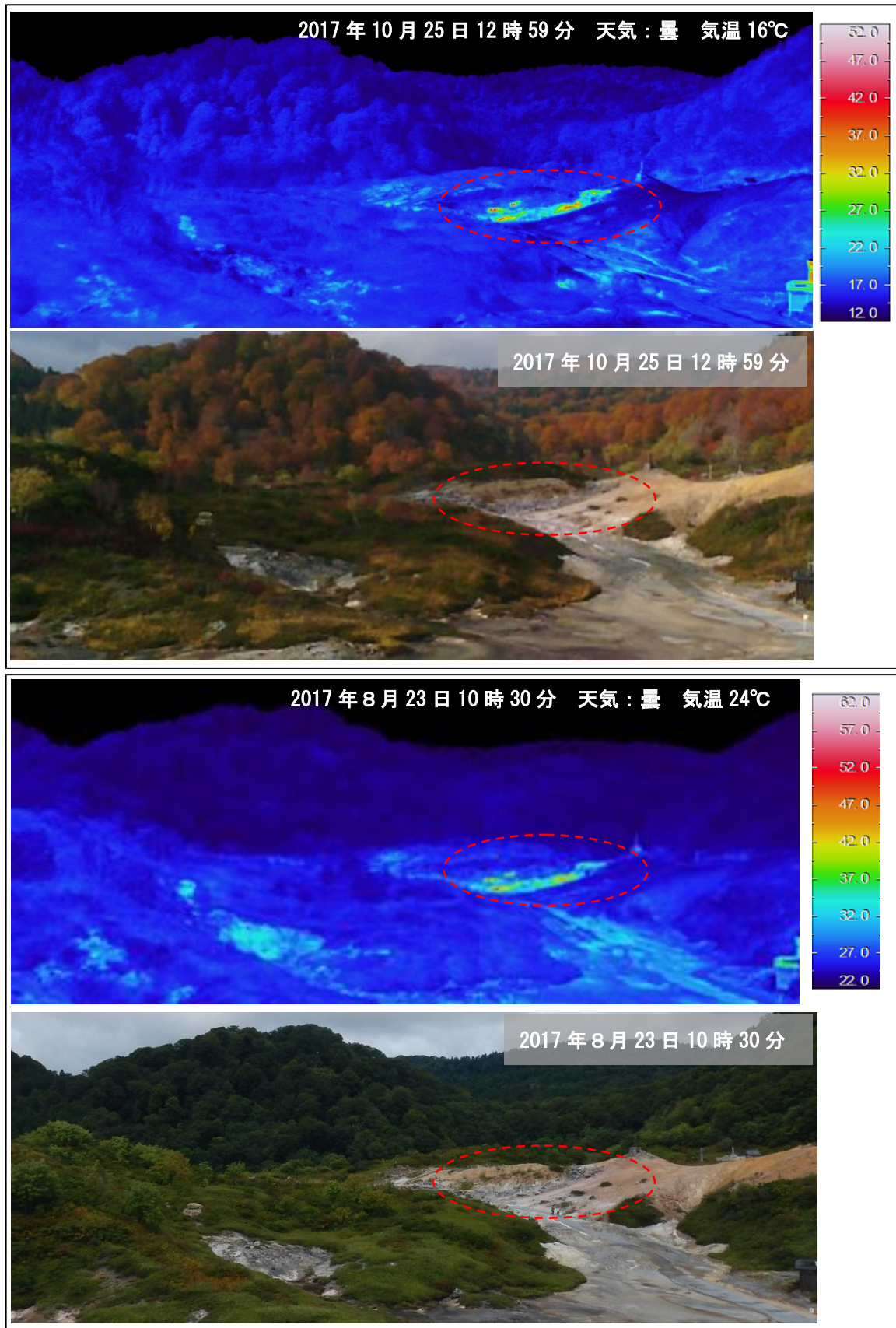


図4 恐山 南東から撮影した地獄谷噴気地帯の状況と地表面温度分布

- ・地熱域（赤丸破線内）や噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。
- ※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。

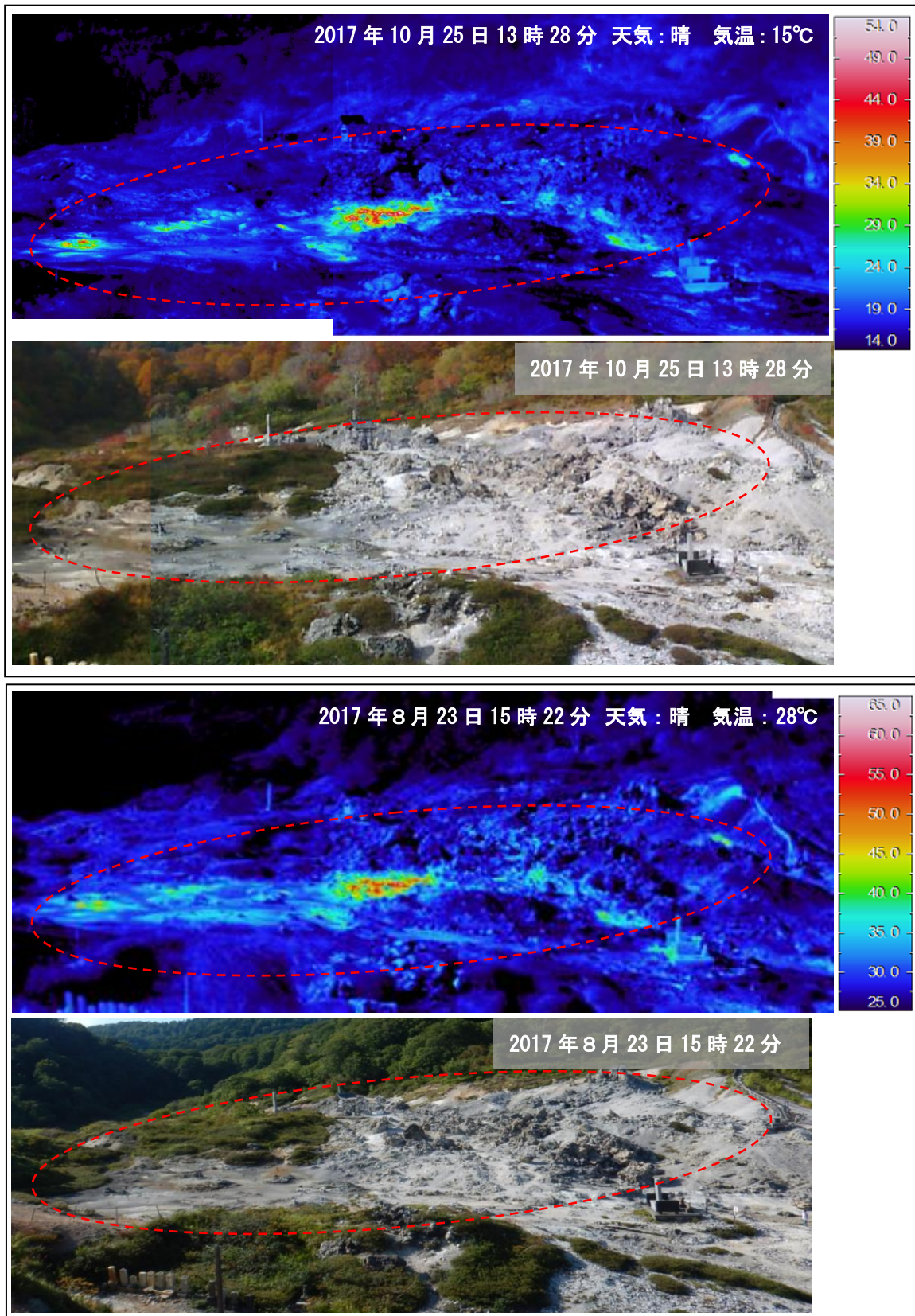


図5 恐山 南東から撮影した地獄谷噴気地帯の状況と地表面温度分布

- ・地熱域（赤丸破線内）や噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。
- ※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。

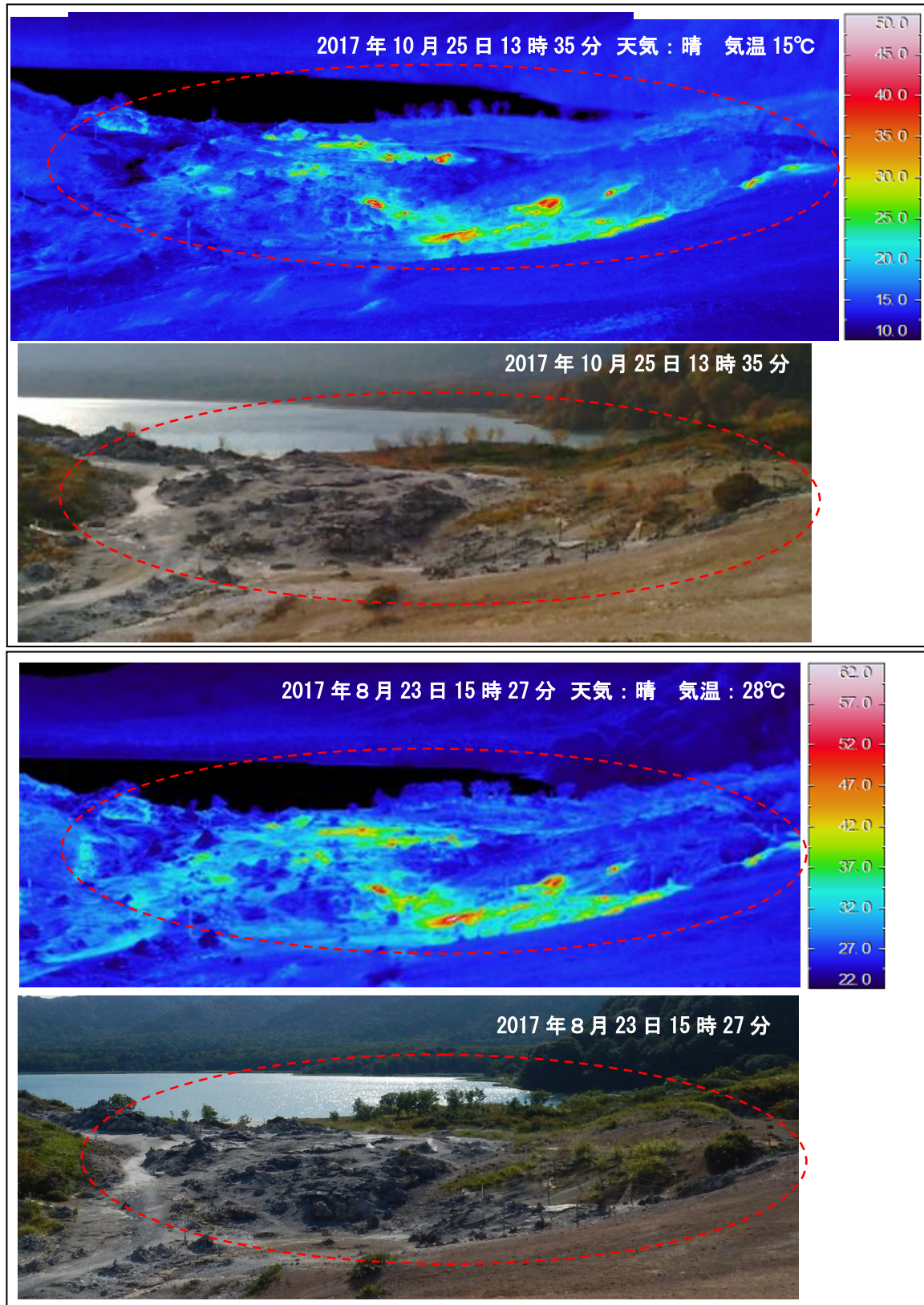


図6 恐山 東北東から撮影した地獄谷噴気地帯の状況と地表面温度分布

- ・地熱域（赤丸破線内）や噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。
- ※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。